

I 研究テーマ

目指す児童像

「言葉の力」を積み重ね、学びを豊かに表現できる子

研究テーマ

対話による新たな気づきを大切にし、主体的に学び合う授業づくり

II テーマ設定について

本校では、「言葉を大切にし、自分の考えを豊かに表現する子」という児童の姿に迫るために、2016(平成28)年度より、「話し合う中で新たに気付いたことを伝え合う授業づくり」というテーマのもと研究を進めてきた。一人学びで「言葉」にこだわり読むことで、自分なりの考えをもつことができ、その考えをみんな学び(話し合い)で通わすことで、自分の思いを表現することができた。また、話し合い活動の中で生まれた新たな「気づき・発見」は、児童の考えをより深いものへと導いた。本年度(2020年度)より本格実施される新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善が求められている。話し合い活動に焦点を当て、研究を進めてきた本校は引き続き、「対話的な学び」を深めていく手立てや方法を研鑽していかなければならない。それと同様に、「主体的な学び」を実現していくための単元づくり・授業づくりの工夫についても、より意識し取り組んでいく必要がある。また、新指導要領には国語科の目標として、「言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す」と明記されている。2020年度より明石市で採用された新教科書(東京書籍)においては、その育むべき資質・能力を「言葉の力」として提示している。我々教師には、その「言葉の力」を、国語科単元学習を通じて児童に身に付けさせ、活用させていくことが求められている。そして、各単元で身に付けた「言葉の力」が児童の中で、一年を通じ、そして学年を超えて蓄積されていくことが重要である。そのためにも、学びの系統性を再確認していく一年でもありたいと考える。そこで、本年度は目指す児童像を『「言葉の力」を積み重ね、学びを豊かに表現できる子』とした。また、昨年度までの研究を踏襲した上で、子どもが主体となって学べる授業づくりを目指していくことをより意識していくためにも、研究テーマを「対話による新たな気づきを大切にし、主体的に学び合う授業づくり」として、一層研究を進めていきたい。

「言葉の力」を積み重ねる

「言葉の力」とは、単元を通じ、児童に身につけさせた国語科の能力。国語力は、この能力の積み重ねにより伸びていく。そのため、系統立てられた「言葉の力」のつながりを教師・子どもが意識して学習に臨みたい。新教科書は、そのつながりを重視している。

学びを豊かに表現できる → 単元で学んだことを生かす

- ・一人一人が自分の思いを言語を通じ的確に分かりやすく表現する。
- ・伝えたいことが相手によく分かるように、工夫して話す。
- ・自分の思いをいろいろな表現方法で書き表す。
- ・感情をこめて音読する など

対話による新たな気づきを大切にす

「話し合う中で新たに気付いたことを伝え合う授業」という昨年度までの研究テーマを踏襲。

- ・友達の考えと自分の考えを比べて、類似点や相違点を見つける。
- ・友達の意見を聞いて、自分の考えを変更・修正し、新たな考えを見つける。
- ・教師との対話によって新たな考えに気付かせ考えを深めさせる。

主体的に学ぶ

- ・学習の流れや、ゴールを児童と共有し、見通しをもたせ、学習に主体的に取り組む。
- ・児童の興味、意欲を高める単元導入の工夫
- ・二次の学習が生かせる三次のゴールの設定
- ・一人一人が自らの意見をもち主体的に学習に臨めるようにするための一人学びの確保

Ⅲ 研究の経緯

2016(平成28)年度～

目指す児童像「ことばを大切にし、自分の考えを豊かに表現する子」

研究テーマ ～話し合う中で新たに気付いたことを伝え合う授業づくり～

2019(平成31・令和元)年度

昨年度に続き、「一人学び」で自分が読み取ったことを「みんな学び」の場を出し合い、そこで新たに気付いたことを出し合い練り合うことに焦点を当て研究を進めた。1、4、5学年の全体授業研、2、3、6学年の学年層研では、単元全体の学習計画を児童と共有し、見通しをもって学習に取り組んだ。単元導入の際には、三次で取り組む活動や成果物のイメージをもたせることで単元のゴールを明確に示し、より興味をもたせ学習に臨ませることができた。また、教師自身が、本時までの指導事項を確認し、本時の意義を指導案の中に示し授業を組み立てたり、一単位時間の中で、思考を深める場面を「ゆさぶり」として意図的に仕組んだりした。このような手立てが効果的に働き、課題について集中して考えたり、話し合いの中で新たに発見した自分の考えを生き生きと表現したりする児童の姿が多く見られるようになった。また、教師にとっては、様々な授業を見合うことで単元づくりや教師の適切な支援について考え、自分の力量を伸ばすことにおいて意義のある研究となった。特に、発話記録を基に語り合った全体授業事後研究会は、どの教師も自分の「見え方」を交流し合い、刺激を受けたり、新たな発想や視点を発見できたりするよい機会となった。また、付箋紙を使うことによって、全員が積極的に発言でき、活発な討議が行われた。「言語環境部」においては、教室や校舎内の掲示などを中心に話し合い取り組んできた。「言語活動部」では、「おはようタイム」の取組を中心に暗唱や放送音読、書く活動、話す活動など各学年に応じた取組を行ってきた。

Ⅳ 本年度の研究

1 児童の実態

昨年度までの取組の成果として、学年の実態に応じた言語活動を行うことにより、意欲をもって学習に取り組むようになったことが挙げられる。さらに「やってみたい」と思えるような単元の導入を設定したり、学習のゴールを共有し見通しをもたせたりすることによって、主体的に学ぼうとする姿が見られた。また、教材に合わせた一人学びの工夫により、言葉に着目し、自信をもって発表できる児童も増えてきた。しかし、その一方で、自分の考えをもてない、どう表したらよいかわからない、という児童もおり、意欲的に自己を表現しようとする児童が学級の中で偏りがちであり、表現力を高めるための互いに関わり合う力はまだまだ弱い。課題として次の6点が挙げられる。

- 「国語が好き」「国語が楽しい」と思える子を育てること
- 領域ごとの学びの系統性を整理・把握し、子ども達に「言葉の力」を積み重ねていくこと
- 言葉にこだわり、言葉を通して一人で読む力を付けること
- 学んだことを生かし、自分の言葉で表現できる子に育てること
- 子どもたちが互いに思考を深めるために教師はどのようなゆさぶりをかけるかを考えていくこと
- 文や文章を書くことへの抵抗を減らし、書くことに慣れ、語彙を増やすこと。

子どもたちが自分の考えや学びを表現するためには、「言葉の力」が必要である。その力を身に付け、活用していくためには、これまでの研究で培ってきた国語科単元学習が生かされる。そこで、目指す児童像を『「言葉の力」を積み重ね、学びを豊かに表現できる子』とする。また、研究テーマを「対話による新たな気づきを大切にし、主体的に学び合う授業づくり」とし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進をより一層推進し、対話により学びを深め、その学びが単元のゴールで、豊かに表現できるようにしたい。また、単元ごとの学びである「言葉の力」を大切にし、その力を身に付け、積み重ねていくことを教師同士、教師と子どもで共有しながら、研究を進めていきたい。

2 重点取組

(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

- * 主体的な学びの実現のため、子ども自身が目的や必要性を意識して学習に取り組める
単元づくり(学習の見通しを立てたり、振り返ったりする場の設定)
- * 一人一人の表現力を高め、対話により学びを深めることに重点をおいた国語科の授業研究

「主体的な学びで深める」

→興味関心を高める・見通しをもつ・課題に対し粘り強く取り組む・振り返って次につなげる

○付きたい力を明確にし、児童が主体的に取り組める意図的な単元づくり・・・図1-①

- ・ 付きたい力を明確にし、「児童が、自分の思いを言語化したくなる(話したい、書きたいと思う)場とするため」の単元づくりを考えていく。三次で取り組む活動や成果物のイメージをもたせることで単元のゴールを明確に示し、より興味をもたせ学習に臨ませる。

○「わたしなり」の考えをつくる場の設定＝一人学び・・・図1-②

- ・ 「話し合い」をするためには、まず、自分の思いをもたなければならない。国語科では、教材文と出会ったとき、自分の読みをもつことが大切である。読みの段階で、自分なりに感じたことをつかめていないと、集団で交流しても自分の思いを出すことができない。授業の中で「一人学び」の方法を知らせ、「一人学び」の場を保証することで、自分の思いを生み出していく時間を確保する。その際、「一人学び」する視点を明確にし、本時の学習のめあて・目標に迫るための課題を与えることが重要である。学習の手引きやワークシート、学習の足跡の掲示など子どもたちが自分の考え(読み)をもつことができるような支援を考えていく。

○学びの過程で得た力を活かす＝自分の思いや考えを広げ深める学習活動・・・図1-④

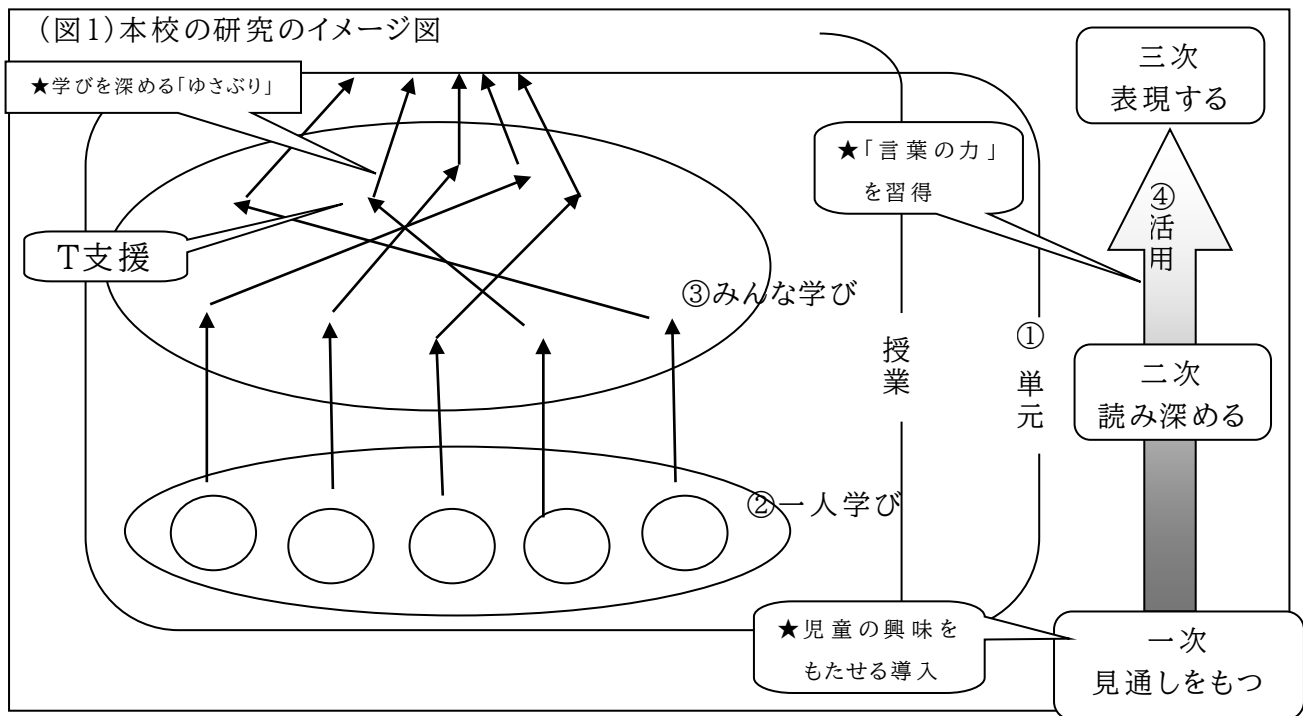
- ・ 「単元のゴール」に向け学んできた力を活かせる三次を設定する。表現活動(音読発表会や朗読劇、図鑑づくり、感想文、意見文、解説文、推薦文など)への取組を意識させ続けるための二次での学習過程の工夫が重要である。三次を意識しためあての設定や、振り返りの活動が必要となってくる。「何を学んだか」「何ができるようになったのか」「できることをどう使うのか」という、「知識・技能」が「思考力・判断力・表現力」へとつながる単元づくりが大切である。

「対話的な学びで深める」

→互いの考えを比較する・協働して課題解決する・教師との対話を手がかりとする

○仲間と交流し、深め合う場の設定＝みんな学びと教師の支援・・・図1-③

- ・ 1時間の授業の中で、「わたしなり」の考え(読み)をもち、それを交流させる場(話し合い)を設定する。本年度の研究の重点取組「話し合い」の場である。全員の考えを交流する場であり、単なる「一人学び発表会」になってはいけない。友だちの意見を聞き、類似点や相違点を見つけ、意見をつなげていく。その中で、新たな気づきを発見し、発表や振り返りにて言語化(話す・書く)することで、自分の考えをより広げ深めていくことができる。また、新たな気づきを効果的に生み出すために、教師が「授業のヤマ」を意識し、児童の思考を深める契機として意図的に「ゆきぶり」かける。どのような「ゆきぶり」が効果的であるか研修していく。また、発表等に対する「評価言」、効果的な「発問」、学びを実感できる「板書」などは、個々の教師が身に付けておかなければならない専門的な力量である。今までも必要とされた「不易」の教師の授業力である。その授業力をいかし、子ども同士の対話を深めていける「コーディネーター(支援者)」としての働きを心がけていく。



(2)身に付けるべき「言葉の力」のつながりを共有し、積み重ねていく

○単元導入時の「言葉の力」の確認

・単元の第一次において、これからどのような「言葉の力」について学ぶのか、さらには、これまで学んできた「言葉の力」と、どのようにつながっているのか子どもと共有する時間をもつ。この活動により、「言葉の力」が、学期・学年が進むごとに徐々にレベルアップしていること、学びが連続していることを子ども自身が実感できる。教師も前学年との付けたい「言葉の力」のちがいを知ることにより、指導内容がより焦点化されることが考えられる。

(例「文学(音読)」に関する「言葉の力」のつながり)

2年「お話を音読する」⇒3年「様子を思いうかべて音読する」⇒4年「想像したことを音読で表す」⇒5年「聞き手に伝わるように音読をする」⇒6年「聞き手に伝わるように朗読する」

(例「説明文(読解の基礎)」に関する「言葉の力」のつながり)

2年「説明の順序」⇒3年「段落の内容をとらえる」⇒4年「文章のまとまりをとらえる」⇒5年「要旨をとらえる」⇒6年「論の進め方をとらえる」

(3)基礎学力・表現力向上のための取組

- 全教育活動で話し合い活動を強化する。
 - ・発声・音読・暗唱活動を活発にして、音声表現に対する抵抗をなくす。
 - ・話し合い活動の形態(効果的なものはペアなのか、グループなのか、全体なのか)
 - ・話型をもとにした「根拠」「意見」「理由」の3点をそろえて話すことの意識付けをする。
(「根拠」や「理由」をめぐって交流や話し合いを深めることができる。)
- おはようタイムを充実させる。
 - ・読書活動(活字にふれる。一冊の本を読み切る体験。)
 - ・書く活動(作文・要約・語彙を増やす活動。)
 - ・話す活動(スピーチ月間・定期的なスピーチ)
- 「家庭学習の手引き」「学習カード」を作成、保護者に配布し、家庭学習の習慣を付けるための協力を依頼する。
- 学習に継続性をもたせるため、既習事項を蓄積・掲示し、学び納めをして学年を上げる。

(4)「豊かな表現」の手助けになる言語環境の充実

- 学級文庫を充実させる。
- 児童作品を掲示し全校生に広める。(児童作品掲示板)
- 「言葉・漢字」などに関する掲示を充実させる。学年に応じた掲示内容で作成する。

3 学び合う単元

	時	学習活動	
一 見 通 し を も つ	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習の見通しをもつ。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・どの子ども追求したくなるような課題設定 ・見通しと学習計画「学習のゴール」の設定(目的の共有) 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ≪単元の見通しと意欲づけ≫ 学習への興味が高まる導入 どの子ども見通しがもてる課題設定 教師のモデルなど </div>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・教材と出会う ・音読 ・新出漢字練習 ・意味調べ ・初発の感想 ・あらすじをとらえる ・課題づくり など ・具体的なイメージをもつ 	
二 読 み 深 め る	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">関係付けて読む。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 一人学びの方法を知らせる 学習のてびき・教師のモデル </div>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○「わたし」なりの考えをつくる 一人学び ・ワークシート、書き込み、ノート ○仲間と交流し、深め合う ・～についての話し合い ペア・グループ・全体 ○「わたし」の考えを見つめ直す ・～を書き直す ・自分の読みの修正や発見 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 机間指導におけるはたらきかけ ・個々の考えの把握 ・つまづきへの対処・支援 </div>
三 表 現 す る	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">活用する</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自らの変容(深まり)や 成長を自覚させる </div>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○「わたし」の考えをまとめる。 ○表現する。 ・台本を仕上げる。 ・本の帯作り ・パンフレット作り ・音読発表会 二次までの学習を活かす など ○振り返り ・自己評価 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 机間指導におけるはたらきかけ ・個々の考えの把握 ・つまづきへの対処・支援 </div>
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自らの変容(深まり)や 成長を自覚させる </div>
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習の方法・進め方などについても 振り返らせる。 </div>

4 基本的な学習過程(一単位時間)

児童の活動	教師の働きかけ
<p>1 導入 ・課題をつかむ</p> <p>2 自分の考えを書き表す 〈一人学び・グループ学び〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題について自分の考えをもつ 〈主体的な学び〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・ワークシート ・教科書への書き込み </div> <p>3 全員で考えを交流する 〈みんな学び〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>意見を出し合い、考えを深める 〈対話的な学び〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉や文にこだわって話す ・話型の活用〈意見・根拠・理由〉 ・「〇〇さんと似ていて～」 ・「〇〇さんと少し違って～」 ・「〇〇さんにつなげて～」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>教師のゆさぶり</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな気づきの交流 ・考えを深める </div> <p>4 ふりかえり・まとめ ・振り返りを自分の言葉で書く</p>	<p>○課題の確認 ○前時の学習の想起</p> <p>○机間指導における働きかけ ○個別の支援</p> <p>○グループ学びの工夫(同質・異質)</p> <p>○単なる発表会にならないよう留意</p> <p>○思考の質を高める教師の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造的な板書 ・机間指導 ・評価言・リボイス ・主発問・補助発問の使い分け ・少人数で話し合わせるタイミング (状況により2～4人組) <div style="text-align: center; margin: 20px 0;"> <p>議論を焦点化し、 考えを深める契機</p> <p>↓</p> <p>対話的で 深い学びの実現</p> </div> <p>・焦点化 ・複数の考えを比べる ・矛盾や対立の取り上げ ・新たな視点の提示 など</p> <p>○学びのメタ化 ○自分の考えがどう変化したか振り返らせる ○友だちの意見と比較させる ○今日の学びが三次にどうつながるか考えさせる。</p>

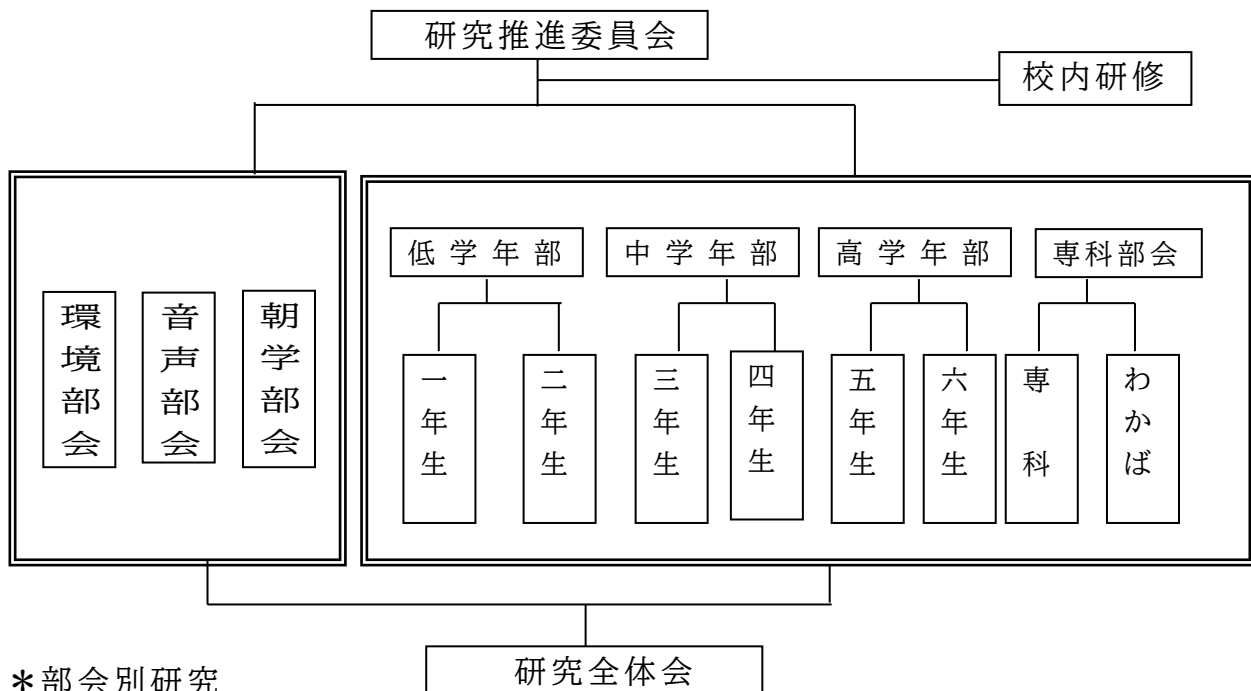
〈参考・引用文献〉

『活用』の授業で鍛える国語学力」

～単元・本時デザインの具体的方法～(2014)勝見健史著(文溪堂)

◎一単位時間の基本的な学習過程を基に、みんなで話し合う前にグループ(同質・異質)での話し合いも取り入れ学びが深まるような学習過程を考えていきたい。

5 研究組織



*部会別研究

①音声部会

- ・放送音読の企画、運営、代表児童への音読(朗読)指導
- ・暗唱教材「声に出して」の活用方法の検討、推進

②朝学部会

- ・朝の学習の時間の活用・工夫
 - 書く活動の検討(系統立てた学年の取組)
 - 読書(活字に触れる国語の素地づくり=小説、絵本など文章を読む時間とする)
- ・学習カードの作成・配布

③環境部会

- ・教室掲示・・・話型掲示物の管理
- ・掲示物等ファイルの管理
- ・掲示板の言語環境作り・・・児童作品、詩などの掲示(特に三次での表現作品)
- ・学年に応じた「ことば」に関する掲示・・・学期に一回程度の頻度で掲示内容を刷新
- ・各学年の図書コーナーの整理・充実
- ・一年の学びを年度末に「学び納め」としてまとめ、次年度へ学びをつなげる。

※研究推進

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	専科わかば
① 音声部会							
② 朝学部会							
③ 環境部会							

6 研究計画

≪校内研究会≫

- 全体研、事前研、事後研、学年層研、学年研、各部会など
- 授業研究は、全体研の授業公開を行い、「話し合い活動」に焦点をあて思考を深めるための指導・支援のあり方について交流し、授業力の向上を目指す。

<具体的な取組について>

(1) 昨年度の成果をもとに、全員が公開授業を行う。

- ① 全体研究授業は3学年が行う。全員参観とし、原則として研究会日程の中で事前・事後研究会を行う。事前研究会の前に学年層で事前研究会を設けてもよい。
- ② 学年層研究授業は、①以外の学年で3つ行う。事前・事後研究会は、学年層で行う。日程については、授業者と研究推進委員会で調整する。
- ③ ①②以外の方は、学年内公開授業とする。授業を行う日を決め、前日までに全員に指導案を配布する。他学年の参観は自由とするが、同学年は必ず参観する。(授業後すみやかに事後研または参観カード)

(2) 公開授業の形態について

児童一人一人が思いや考えをもつこと、それを表現し合い思考を深めるための教師の支援について重点的に取り組む。完成した表現を見合う場面ではなく、一人一人が思いや考えをもつための場面をふくめ、「ペアでの話し合い」「全体での話し合い」など思いや考えを集団で練り合う場面、高め合う場面を中心に授業研究し、教師の指導・支援のあり方を中心に事後研を進めていきたいと考える。

(3) 授業研究会の持ち方について

- ① 全体研究授業の事前研究会・事後研究会は全体研究会で行う。
その他は学年層部会か学年で行う。日程や会場、記録係は研究推進委員が中心となって決める。
- ② 指導案は、原則として授業公開日の前日までに全員配布する。
ただし、全体授業研究会指導案は事前研究会の前日までに配布し、検討後修正して完成したものを講師に送付する。
- ③ 全体研・学年層研は授業者の同学年が基本的に授業記録をとる。
- ④ 事前・事後研究会の司会、記録は原則として研究推進委員が行う。
- ⑤ 事前・事後研究会記録は、研究推進委員が「研推だより」にまとめ全員に配布する。
- ⑥ 公開授業を参観後、参観カードを書き、授業者に渡す。
- ⑦ 年度末、全体授業研究会・学年層授業研究会以外の指導案は冊子にのせないで各自で保管・整理しておく。

(4)年間研究日程

	月	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
1 学 期	4月	1	8	15 全体研究会	22 研究会 (三部会)	29
	5月		6 振替休日	13 職員会議	20	27
	6月	3	10 職員会議	17	29(月) 全体研究会 講師 勝見先生	
	7月	1	8 職員会議	15		
夏季 休業中		校内研究		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 13:30～13:50 さよならタイム 13:50～14:35 5校時 14:40 下校 </div>		
2 学 期	9月	2	9 職員会議	16	23	30 全体事前研究会
	10月		7 職員会議	15(木) 全体授業研究会 指導助言 勝見先生	21	28 自然学校期間
	11月	2(月) 全体事前研究会	11 職員会議	16(月) 全体授業研究会 指導助言 勝見先生	25	
	12月	3	9 職員会議	16	23	
3 学 期	1月	6	13 職員会議	20	27 研究会 (三部会)	
	2月	3	10 職員会議	17	24 全体研究会 (まとめ)	
	3月	3 職員会議	10 職員会議	17	24	

学年層授業研究会

低学年層

中学年層

高学年層